

サクッとわかる **日商3級商業簿記** テキスト

# 3級商業簿記 「仕訳コレクション」



ネットスクール出版

# 3級商業簿記

## 第2章

### ①現金と当座預金

サクッとわかる テキスト  
ネットスクール出版



銀行から現金100円を借り入れた。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
現	金	100	借	入	金	100

借入金100円を現金で返済した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
借入金	100	現金	100

商品100円を売り上げ、先方振出の小切手を受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	100	売	上	100

現金の実際有高は300円であった（帳簿残高は500円である）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	200	現金	200

★  $300\text{円} - 500\text{円} = \triangle 200\text{円}$

現金の実際有高は600円であった（帳簿残高は500円である）。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	100	現	金 過 不 足	100

★  $600\text{円} - 500\text{円} = 100\text{円}$

現金過不足200円（借方に計上）のうち、150円は水道光熱費の記入漏れであることが判明した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
水道光熱費	150	現金過不足	150



現金過不足100円（貸方に計上）のうち、60円は受取手数料の記入漏れであることが判明した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	60	受取手数料	60

現金100円を当座預金口座に預け入れた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	100	現金	100

商品300円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
仕	入	300	当	座 預 金	300

商品500円を売り上げ、代金は先方振出の小切手で受け取り、ただちに当座預金口座に預け入れた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	500	売上	500

商品1,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金口座の残高は800円であり、銀行とは限度額500円の当座借越契約を結んでいる（一勘定制）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	1,000	当 座	1,000

現金2,000円を当座預金口座に預け入れた（一勘定制）。

借方科目		金額	貸方科目		金額
当	座	2,000	現	金	2,000

商品1,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金口座の残高は800円であり、銀行とは限度額500円の当座借越契約を結んでいる（二勘定制）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	1,000	当 座 預 金	800
		当 座 借 越	200

現金2,000円を当座預金口座に預け入れた。なお、当座借越が200円ある（二勘定制）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座借越	200	現金	2,000
当座預金	1,800		

★ 二勘定制では、当座借越（負債）を返済したあと、超過する額を当座預金（資産）として処理します。



会計係が小口係に小口現金の前渡分として、小切手1,000円を振り出して渡した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	1,000	当座預金	1,000

会計係は小口係から、バス代100円、切手代200円、お茶代100円を支払ったという報告を受けた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	100	小口現金	400
通信費	200		
雑費	100		

会計係が小切手400円を振り出して小口現金を補給した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
小口現金	400	当座預金	400

会計係は小口係から、バス代100円、切手代200円、お茶代100円を支払ったという報告を受けたため、小切手を振り出してただちに小口現金を補給した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	100	当座預金	400
通信費	200		
雑費	100		

★「ただちに補給した」ときは、小口現金（資産）の減少の処理を省略します。

# 3級商業簿記

## 第3章

### ②商品売買

サクッとわかる テキスト  
ネットスクール出版



商品100円を仕入れ、代金は現金で支払った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
仕	入	100	現	金	100

仕 入

|

商品100円を仕入れ、代金は掛けとした。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	100	買 掛 金	100

買掛金100円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買 掛 金	100	現 金	100



以前、掛けで仕入れた商品のうち、20円分が品  
違いであったため、仕入先に戻した。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
買	掛	金	20	仕	入	20

以前、掛けで仕入れた商品について、汚損があったため、10円の値引きを受けた。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
買	掛	金	10	仕	入	10

商品100円を掛けて仕入れ、運送料10円を現金で支払った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
仕	入	110	買	掛	100
			現	金	10

商品100円を掛けて仕入れ、運送料10円（先方負担）を現金で支払った（先方負担の仕入諸掛りは立替金で処理する）。

借方科目		金額	貸方科目		金額
仕	入	100	買	掛	100
立	替	10	現	金	10

商品100円を掛けて仕入れ、運送料10円（先方負担）を現金で支払った（先方負担の仕入諸掛りは買掛金を減額する）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	100	買 掛 金	90
		現 金	10

★ 100円 - 10円 = 90円

商品150円を売り上げ、代金は現金で受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	150	売	上	150

商品150円を売り上げ、代金は掛けとした。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	150	売上	150

売掛金150円を現金で回収した。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	150	売	掛 金	150



以前、掛けで売り上げた商品のうち、50円分が品違いであったため、得意先から戻された。

借方科目		金額	貸方科目		金額
売	上	50	売	掛 金	50

以前、掛けで売り上げた商品について、汚損があったため、40円の値引きを行った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
売	上	40	売	掛 金	40

商品150円を掛けて売り上げ、運送料10円（当店負担）を現金で支払った。

借方科目			金額	貸方科目			金額
売	掛	金	150	売	上	150	
発	送	費	10	現	金	10	

商品150円を掛けて売り上げ、運送料10円（先方負担）を現金で支払った（先方負担の販売諸掛りは立替金で処理する）。

借方科目			金額	貸方科目			金額
売	掛	金	150	売	上	150	
立	替	金	10	現	金	10	

商品150円を掛けて売り上げ、運送料10円（先方負担）を現金で支払った（先方負担の販売諸掛りは売掛金に含めて処理する）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	160	売上	150
		現金	10

# 3級商業簿記

## 第4章

### ③手形

サクッとわかる テキスト  
ネットスクール出版



商品100円を仕入れ、約束手形を振り出した。

借方科目		金額	貸方科目		金額
仕	入	100	支	払手形	100

以前に振り出した約束手形の支払期日となり、当座預金口座から100円が引き落とされた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支 払 手 形	100	当 座 預 金	100



商品100円を売り上げ、得意先振出の約束手形を受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手形	100	売上	100

以前に受け取っていた約束手形の支払期日となり、当座預金口座に100円が入金された。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	100	受取手形	100

A商店（当店）は、仕入先B商店に対する買掛金100円を支払うため、得意先C商店を名宛人とする為替手形を振り出し、C商店の引受けを得て、B商店に渡した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買 掛 金	100	売 掛 金	100

B商店（当店）は、A商店に対する売掛金100円の回収として、A商店振出、C商店引受の為替手形を受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手形	100	売掛金	100

★（為替）手形を受け取ったら、受取手形（資産）で処理します。

以前に受け取っていた為替手形の支払期日となり、当座預金口座に100円が入金された。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	100	受取手形	100

C商店（当店）は、かねてから買掛金のある仕入先A商店より、A商店振出、B商店受取の為替手形100円の引受けを求められたので、これを引き受けた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	100	支払手形	100

★ 為替手形を引き受けたら、支払手形（負債）で処理します。

以前に引き受けた為替手形の支払期日となり、当座預金口座から100円が引き落とされた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払手形	100	当座預金	100

所有する約束手形100円を割り引き、割引料10円を差し引いた残額（90円）は当座預金口座に入金した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
手形売却損	10	受取手形	100
当座預金	90		



商品100円を仕入れ、その代金として他店が振り出した約束手形を裏書譲渡した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	100	受 取 手 形	100

★ 約束手形を受け取ったときに、**受取手形（資産）**で処理しているので、裏書譲渡したときは、これを減額します。

商品100円を売り上げ、その代金として他店が振り出した約束手形を裏書譲渡された。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手形	100	売 上	100

- ★ 他店が振り出した約束手形を裏書譲渡された(受け取った)ときは、**受取手形(資産)**で処理します。

# 3級商業簿記

## 第5章

### ④ 有価証券と固定資産

サクッとわかる テキスト  
ネットスクール出版



売買目的で株式100株を@100円で購入し、購入手数料500円とともに現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売買目的有価証券	10,500	現金	10,500

★ @100円×100株+500円=10,500円

所有する株式の配当金として、配当金領収証  
500円を受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	500	受取配当金	500	

売買目的で所有する株式（取得原価10,500円）  
を10,200円で売却し、代金は現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	10,200	売買目的有価証券	10,500
有価証券売却損	300		

★ 貸借差額

売買目的で所有する株式（取得原価10,500円）  
を11,000円で売却し、代金は現金で受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	11,000	売買目的有価証券	10,500	★
			有価証券売却益	500	

★ 貸借差額

売買目的で乙社社債（額面総額10,000円）を額面100円につき、95円で購入し、代金は購入手数料100円とともに現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売買目的有価証券	9,600	現金	9,600

★  $10,000\text{円} \times \frac{95\text{円}}{100\text{円}} + 100\text{円} = 9,600\text{円}$



所有する乙社社債の利払日が到来し、利息100円を現金で受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	100	有価証券利息	100	

売買目的で所有する乙社社債（額面総額10,000円、取得原価9,600円）を9,400円で売却し、代金は現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	9,400	売買目的有価証券	9,600
有価証券売却損	200		

★ 貸借差額

売買目的で所有する乙社社債（額面総額10,000円、取得原価9,600円）を額面100円につき97円で売却し、代金は現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	9,700 <sup>①</sup>	売買目的有価証券 有価証券売却益	9,600 100 <sup>②</sup>

①  $10,000\text{円} \times \frac{97\text{円}}{100\text{円}} = 9,700\text{円}$

② 貸借差額

店舗用の建物30,000円を購入し、代金は仲介手数料2,000円とともに小切手を振り出して支払った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
建	物	32,000	当	座 預 金	32,000

帳簿価額32,000円の建物を30,000円で売却し、代金は現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	30,000	建物	32,000
固定資産売却損	2,000		

★ 貸借差額

帳簿価額32,000円の建物を35,000円で売却し、代金は現金で受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	35,000	建	物	32,000
			固定資産売却益		3,000

★ 貸借差額

# 3級商業簿記

## 第6章

### ⑤その他の取引①

サクッとわかる テキスト  
ネットスクール出版



商品100円の注文にあたって、手付金40円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
前払金	40	現金	40



商品100円を仕入れ、代金のうち40円はさきに  
支払った手付金を充当し、残額は掛けとした。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
仕	入	100	前	払	金	40
			買	掛	金	60

商品100円の注文を受けたさい、手付金40円を現金で受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
現	金	40	前	受	金	40

商品100円を売り上げ、代金のうち40円はさきに受け取った手付金を充当し、残額は掛けとした。

借方科目			金額	貸方科目		金額
前	受	金	40	売		100
売	掛	金	60		上	

売買目的で所有する株式100円を120円で売却し、代金は月末に受け取ることにした。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未収金	120	売買目的有価証券	100
		有価証券売却益	20

未収金120円を現金で回収した。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
現	金	120	未	収	金	120

売買目的で甲社株式を120円で購入し、代金は月末に支払うこととした。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売買目的有価証券	120	未払金	120

未払金120円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未払金	120	現金	120

従業員の出張にあたって、旅費の概算額として100円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮払金	100	現金	100



従業員が出張から戻り、概算額で渡していた100円のうち80円を旅費として使ったと報告を受け、残金20円は現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	80	仮払金	100
現金	20		

出張中の従業員から当座預金口座に100円の入金があったが、その内容は不明である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	100	仮受金	100

仮受金100円は売掛金の回収額であることが判明した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮受金	100	売掛金	100

従業員が負担すべき生命保険料100円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
立替金	100	現金	100

立替払いしていた従業員負担の生命保険料100円を現金で受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	100	立	替	金
					100

従業員に対する給料総額1,000円のうち、源泉  
所得税100円を天引きした残額（900円）を現  
金で支給した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
給 料	1,000	預 り 金	100
		現 金	900

預り金として処理していた従業員の源泉所得税  
100円を現金で納付した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
預り金	100	現金	100

# 3級商業簿記

## 第7章

### ⑥その他の取引②

サクッとわかる テキスト  
ネットスクール出版





商品券100円を発行し、現金を受け取った。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
現	金	100	商	品	券	100

商品100円を売り上げ、代金は当店発行の商品券で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品券	100	売上	100

商品100円を売り上げ、代金は他店発行の商品券で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
他店商品券	100	売 上	100

当社が所有する他店商品券100円と、他店が所有する当社発行の商品券150円を交換し、差額は現金で精算した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
商品券	150	他店商品券	100
		現金	50

現金400円を貸し付けた。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸付金	400	現金	400

貸付金400円を現金で回収した。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
現	金	400	貸	付	金	400

貸付金(元本400円)の利息を現金で受け取った。  
年利率は3%、貸付期間は4カ月である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	4	受取利息	4

★  $400円 \times 3\% \times \frac{4カ月}{12カ月} = 4円$

現金400円を借り入れた。

借方科目		金額	貸方科目		金額	
現	金	400	借	入	金	400



借入金400円を当座預金口座から支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
借入金	400	当座預金	400

借入金（元本400円）の利息を当座預金口座から支払った。年利率は3%、借入期間は10カ月である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払利息	10	当座預金	10

$$\star 400\text{円} \times 3\% \times \frac{10\text{カ月}}{12\text{カ月}} = 10\text{円}$$

現金400円を貸し付け、担保として約束手形を受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
手形貸付金	400	現金	400

現金400円を借り入れ、担保として約束手形を渡した。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	400	手形借入金	400	

お店の開業にあたり、現金500円を元入れした。

借方科目		金額	貸方科目		金額
現	金	500	資	本 金	500

店主が店の現金100円を私用で引き出した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金 (または引出金)	100	現金	100

事業用の店舗にかかる固定資産税100円を現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
租 税 公 課	100	現 金	100

店主個人の所得税100円を店の現金で支払った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金 (または引出金)	100	現金	100



店舗兼自宅としている建物の固定資産税100円を現金で支払った。なお、店舗分は60%（60円）、自宅分は40%（40円）である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
租 税 公 課	60	現 金	100
資 本 金 (または引出金)	40		

# 3級商業簿記 第11・12章

## ⑦決算手続き①②

サクッとわかる テキスト  
ネットスクール出版



決算日を迎えた。現金過不足100円（借方残高）の原因は不明である。

借方科目		金額	貸方科目		金額
雑	損	100	現金過不足	100	

決算日を迎えた。現金過不足100円（貸方残高）の原因は不明である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	100	雑益	100

決算において、売掛金の期末残高15,000円に対し、2%の貸倒引当金を設定する。貸倒引当金の残高は200円である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金繰入	100	貸倒引当金	100

- ★  $15,000\text{円} \times 2\% = 300\text{円}$   
 $300\text{円} - 200\text{円} = 100\text{円}$

前期に発生した売掛金300円が貸し倒れた。貸倒引当金の残高は200円である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
貸倒引当金	200	売掛金	300
貸倒損失	100		

消耗品100円を購入し、現金で支払った（購入時、資産処理）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
消 耗 品	100	現 金	100

決算日を迎えた。当期に購入した消耗品100円のうち、25円分が残っていた（購入時、資産処理）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
消耗品費	75	消耗品	75

★ 購入時に消耗品（資産）で処理しているときは、決算時に使った分を消耗品費（費用）に振り替えます。

$$100円 - 25円 = 75円$$



消耗品100円を購入し、現金で支払った（購入時、費用処理）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
消耗品費	100	現金	100

決算日を迎えた。当期に購入した消耗品100円のうち、25円分が残っていた(購入時、費用処理)。

借方科目	金額	貸方科目	金額
消耗品	25	消耗品費	25

★ 購入時に消耗品費(費用)で処理しているときは、決算時に残っている分を消耗品(資産)に振り替えます。

売買目的有価証券（帳簿価額10,000円）の期末時価は9,000円であった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
有価証券評価損	1,000	売買目的有価証券	1,000

★  $9,000\text{円} - 10,000\text{円} = \triangle 1,000\text{円}$

売買目的有価証券（帳簿価額10,000円）の期末時価は12,000円であった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売買目的有価証券	2,000	有価証券評価益	2,000

★  $12,000\text{円} - 10,000\text{円} = 2,000\text{円}$

当期首に購入した備品（取得原価は5,000円）について、定額法により減価償却を行う。残存価額は取得原価の10%、耐用年数は5年、記帳方法は直接法である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	900	備品	900

★  $5,000円 \times 0.9 \div 5年 = 900円$

当期首に購入した備品（取得原価は5,000円）について、定額法により減価償却を行う。残存価額は取得原価の10%、耐用年数は5年、記帳方法は間接法である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	900	備品減価償却累計額	900

★  $5,000円 \times 0.9 \div 5年 = 900円$

当期の10月1日に取得した備品（取得原価5,000円、残存価額は取得原価の10%、耐用年数は5年、記帳方法は間接法）について、定額法により減価償却を行う。会計期間は1月1日から12月31日までの1年である。

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	225	備品減価償却累計額	225

$$\star 5,000\text{円} \times 0.9 \div 5\text{年} \times \frac{3\text{カ月} (10/1 \sim 12/31)}{12\text{カ月}} = 225\text{円}$$

当期首において、備品（取得原価は5,000円、減価償却累計額は1,800円、記帳方法は間接法）を3,500円で売却し、代金は現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品減価償却累計額	1,800	備品	5,000
現金	3,500	固定資産売却益	300

★ 貸借差額



当期首において、備品（取得原価は5,000円、減価償却累計額は1,800円、記帳方法は直接法）を3,500円で売却し、代金は現金で受け取った。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	3,500	備品	3,200
		固定資産売却益	300

★ 貸借差額

当期の10月31日に備品（取得原価は5,000円、減価償却累計額は1,800円）を売却し、現金3,500円を受け取った。減価償却方法は定額法（残存価額は取得原価の10%、耐用年数は5年）、記帳方法は間接法で処理している（会計期間：1月1日～12月31日）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品減価償却累計額	1,800	備品	5,000
減価償却費	750	固定資産売却益	1,050
現金	3,500		

★  $5,000円 \times 0.9 \div 5年 \times \frac{10カ月 (1/1 \sim 10/31)}{12カ月} = 750円$

決算において、引出金の残高100円（借方）を  
資本金勘定に振り替える。

借方科目	金額	貸方科目	金額
資 本 金	100	引 出 金	100

★ 決算において、引出金は資本金に振り替えます。

決算において、売上原価の算定を行う。売上原価は仕入勘定で算定すること。

期首商品棚卸高 50円

期末商品棚卸高 100円

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	50	繰越商品	50
繰越商品	100	仕 入	100

商品100円を仕入れ、代金は掛けとした(分記法)。

借方科目		金額	貸方科目		金額
商	品	100	買	掛 金	100

商品（原価80円）を120円で売り上げ、代金は掛けとした（分記法）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	120	商品	80
		商品売買益	40

決算において、支払保険料のうち300円を次期に繰り延べる。

借方科目	金額	貸方科目	金額
前払保険料	300	支払保険料	300

決算において、受取地代1,200円のうち400円を次期に繰り延べる。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取地代	400	前受地代	400



決算において、借入金の利息700円を見越計上する。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払利息	700	未払利息	700

決算において、貸付金の利息500円を見越計上する。

借方科目	金額	貸方科目	金額
未収利息	500	受取利息	500

# 3級商業簿記

## 第13章

### ⑧決算手続き③

サクッとわかる テキスト  
ネットスクール出版



決算において、売上200円を損益勘定に振り替える。

借方科目		金額	貸方科目		金額
売	上	200	損	益	200

決算において、仕入100円と支払保険料40円を損益勘定に振り替える。

借方科目		金額	貸方科目		金額
損	益	140	仕入		100
			支払保険料		40

当期純利益60円を損益勘定から資本金勘定に振り替える。

借方科目	金額	貸方科目	金額
損		資 本 金	60
	60		

★ 当期純利益を計上することにより、元手が増加するので、資本金（純資産）の増加として処理します。